

事後評価書

箇所名	近鉄名古屋線川原町駅付近		事業名	街路事業	課名	都市政策課
事業概要	工期 (下段前回)	全体：H18年度～R 2年度	全体事業費 (下段前回)	全体：10,655百万円 (負担率：国5.5 県2.25 市2.25)		
		全体：H18年度～H29年度		全体：10,565百万円 (負担率：国5.5 県2.25 市2.25)		
事業目的及び内容		<p>■当該路線の状況</p> <p>本事業は、「近鉄名古屋線川原町駅周辺整備事業」における基本事業として位置付けられており、平成18年度から着手してきております。また、道路網としては東西方向に国道365号や国道477号、南北方向に国道1号が通過する交通の要所となっています。</p> <p>しかし、国道365号と重用する都市計画道路四日市関ヶ原線は交通量も多く踏切遮断時間も非常に長かったため、常時渋滞が発生しているという問題を抱えていました。また、川原町駅周辺の道路は幅員が非常に狭く歩道も整備されていなかったため、人と車が輻輳し非常に危険な状況となっていました。さらに、線路によって町が分断され、街づくりの支障となっていました。</p> <p>■事業の目的</p> <p>踏切を除去し、道路を整備することによって自動車交通の円滑化を図り、安全な交通機能を確認するとともに、「一般国道477号西浦バイパス道路改築事業」、「二級河川三滝川河川改修事業」を一体的に整備し、鉄道を高架化することによって総合的なまちづくりを行います。</p> <p>■事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業期間 15年間(平成18年度～令和2年度) ・全体事業費 10,655百万円(工事費:10,017百万円、用地費:638百万円) ・計画延長 L=0.46km(起点)三滝川～(終点)海蔵川 ・除去踏切 4箇所 				

1 事業の効果

1-1 費用対効果分析

◆費用便益分析結果

区分		前回 (基準年：H27)	今回評価時 (基準年：R4)	備考
費用	事業費	117.7億円	153.9億円	事業費の変更
	維持管理費	0.2億円	0.4億円	三重県の実績値(H24～R3)
	合計	117.9億円	154.3億円	
効果	移動時間短縮便益	151.9億円	175.6億円	原単位の見直し
	走行経費減少便益	2.9億円	46.4億円	原単位の見直し
	交通事故減少便益	21.8億円	1.7億円	原単位の見直し
	合計	176.6億円	223.7億円	
費用便益分析結果 (B/C)		1.5	1.4	【共通】 ・マニュアルの変更 ・基準年次の変更 (現在価値化)

※出典：費用便益分析マニュアル(令和4年2月 国土交通省 道路局 都市局)

1-2 費用対効果の検証

◆移動時間短縮効果の検証

踏切除去・街路整備により通り抜け時間が大幅に短縮されました。特に、(都)四日市関ヶ原線では、堀木橋～四日市橋間で整備前120秒程度を要していたものが40秒程度まで短縮されました。

◆走行経費減少効果の検証

踏切遮断、渋滞の解消により走行効率が向上し、走行に必要な経費減少に寄与しています。事業前の最大渋滞箇所は(都)四日市関ヶ原線であり、ピーク1時間あたりの最大遮断時間31.3分、最大渋滞長100m(西進)が解消されました。

◆交通事故減少効果の検証

踏切除去、道路整備により、死傷事故が概ね半減しています。(※整備エリア周辺)
 (連続立体供用前[平成24年～平成27年]:7件 → 供用後[平成29年～令和4年]:4件)

1-3 その他の効果

◆まちづくり整備

近隣の公園が防災公園として整備され、河原町駅前には駅前広場が整備されました。また鉄道の高架下には防災倉庫や駐輪場などが整備され、安心して暮らせるまちづくりが進みました。

◆地域交流の活性化

鉄道の高架化により往来がしやすくなり、東西地区の連携強化や新たな交流が図られています。

「東西地区で共同の防災訓練が行われた（海蔵地区自治会）」、「小学校サッカークラブの交流が始まった（橋北小学校）」といった声を伺っています。

◆物流企業への効果

「連続立体供用前の宅配エリアは鉄道で分断されていましたが、踏切の除去により、効率的なエリア設定が可能になりました（ヤマト運輸）」といった物流効率化への期待の声を伺っています。

また、踏切の除去・道路整備により、線路を挟んだ東西を円滑に移動できるようになったため、宅配等の物流効率化、従事者の負担軽減につながっています。

2 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

連続立体交差事業に合わせて駅前広場・公園整備が進み、緑ある憩いの場が創出されました。

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

周辺エリアの人口及び世帯数が増加、川原町駅の鉄道乗降客数が増加した（コロナ禍迄）ことで当該事業の必要性が一層高まっています。

4 県民の意見

近鉄名古屋線川原町駅付近連続立体交差の意見として、事業箇所周辺に住む2,043世帯へアンケートを配布するとともに、広域的な地域にお住いの道路利用者に対してWEBアンケートを実施しました。住民アンケートは、1,008通のご回答をいただきました。WEBアンケートにおいては、416名の方からご回答を得られました。地域住民の約79%、道路利用者WEBアンケートでは、約70%が満足と回答しています。

満足と感ずること

1. 踏切渋滞の解消・交通安全

- ・踏切渋滞が無くなり、運転中の精神的苦痛がなくなった
- ・毎日利用するが、子供と一緒に安心して徒歩で移動できるようになった

2. 防災・防犯

- ・地域の防災力向上につながった（滝川公園が防災公園として整備された）
- ・治安の向上につながると感じている

3. 住環境・景観

- ・見た目がきれいになり、暗いイメージから綺麗で爽やかなイメージとなった
- ・電車の振動・騒音が減ったと感じている

不満と感ずること

- ・交通がスムーズになり、自動車の速度が上がって危険に感じる
- ・駅前ロータリーを利用せずに路上駐車により送迎している車が多い

関係機関の意見

- ・踏切の除去により、時間短縮とともに安静な救急搬送が可能となった（四日市市消防本部）
- ・輸送効率が向上し、特に夕方の宅配・集荷の時間が短縮された（運輸事業者）
- ・踏切事故や異常検知のリスクが解消され鉄道の定時運行が向上した（近畿日本鉄道）
- ・線路をまたいだ往来がしやすくなり、地区間の交流機会が増えた（自治会）
- ・通学路の安全性が向上した（小学校）

5 再評価の経緯

当該事業は、平成18年に事業着手し、平成27年度の再評価においては、事業継続の妥当性が認められたことから、事業継続を了承されています。

6 今後の課題等

- ・踏切除去により車両の速度が上昇し、危険に感じる
 - ・駅前ロータリーを利用せず路上で送迎の駐停車があり、歩行者見えづらく危ない
- 対応方針：これらのことについて、今後関係機関と協議を行い、対応を検討していきます。

※再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。